

何もわからない人じゃない できないことに日々怯えている

誰もがかかり得る病…「認知症」。自分が…家族が…そのときどう生きるか。認知症は主に高齢者にみられる脳の病気であり、覚える・見る・聞く・話す・考える等の知的機能が低下し、社会生活や職業上の機能に支障をきたす状態、症状を言う。昔は「ボケ」や「もうろく」等と呼ばれ、単なる老化と考えられていた。一時「痴呆」という病名だったのが、平成16年12月に「認知症」という呼称に変わり定着している。

さて「認知症は、何もわからなくなり本人は幸せで家族が大変だ」「認知症になったら人生終わりだ」等は、認知症に対する誤解である。認知症の人は何もわからない人ではなく、できなくなったこと、できなくなっていくことに日々怯えている。



「認知症」への誤解は、治らない中核症状と、治る周辺症状が峻別されていないことにある。

中核症状は、脳の障害から起きる記憶障害や見当識で治すことができない。しかし、徘徊や物盗られ妄想、便いじり等は周辺症状であり、ケア次第で緩和されるが、このことはあまり知られていない。

「認知症」になった人は、できると思った生活行為ができず周囲の期待にも応えられないというギャップに、漠然と気づいているが、それを乗り越える力がなく、自分が他人に迷惑をかけていると思込み、悩み、怯え、焦る。

そして、「世話になって迷惑をかけたくない」という強い意識に追い込まれ、一転して防御反応から、徘徊や妄想等の周辺症状が生まれるのだ。だから、認知症になっても、決して「何もわからなくなった幸せな人」ではないのだ。

認知症高齢者に寄り添うことは、周辺症状を予防する第一歩ある。本人、家族、そして社会が認知症を正しく理解し、社会全体の問題としてそれぞれの取り組みをしたい。

あなたも 認知症サポーター に…！

介護で一番の問題は「認知症」です。

認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていけるよう、認知症に関する正しい知識を持ち、地域等において認知症の人や家族を温かく見守る人が「認知症サポーター」です。自分のできる範囲で支援する人の輪を広げようと、地域の認知症サポーターを養成する養成講座を開催しているのをご存知でしょうか。今月16日（月）に、地域包括支援センター仙川 主催、社会福祉協議会 共催せんがわ劇場 協力により、東部地域住民の皆さんが、市民劇団G²カイズと一緒に演じた『市民が演じる劇で考える「認知症サポーター養成講座」』を開催し、100名を超える地域の人達が参加されました。

養成講座終了後には「オレンジリング」と呼ばれるリストバンドを受講者全員にお渡ししました。



オレンジリング



「オレンジリング」は、認知症を支援する『目印』であり、連携の『印』でもあります。友人や家族に正しい知識を伝え、各自ができる範囲で認知症の人を支援します。

新規利用者紹介

Uさん 75歳 男性

元気になったら
石和の温泉に みんなを
🔥 連れていくよ

今年3月に脳梗塞で倒れ、
左半身麻痺になる。
入院して、リハビリを6ヶ月行い退院。
車椅子での在宅療養生活となった。

やっぱり家がいい！ 退院できて本当に良かった。
自分で作った大根 もこんなに良く育った！
「ケアホーム希望」のみんなに、この俺の
作った大根を食べさせてあげたい。



神代植物公園の 菊展に行ってきました!



神代植物公園

わあ~ これは
ほんと きれいな
菊ねえ~



天気の良い日には
近所へ散歩に
出かけます



大正13年生まれだから...
たしか 89歳だよ あれ??
92歳って言われたかな...

誕生日会

嚥下が悪く
誤嚥性肺炎をくり返し
まだ十分に食べられないので
今年の誕生日ケーキは
スタッフが「デカ プリン」
を作ってくれたよ
ありがとう...

HAPPY BIRTHDAY

祝
94歳



お誕生日
おめでとう!



誕生日
おめでとう
ございます!
何歳になったん
ですか?

祝
92歳

